

2013 年度若手研究助成

薬物使用に関する問題を持つ人に対するインターネットを介した認知行動療法プログラムの開発と評価

研究者 高野 歩 (東京大学)

➤ 研究の概要 (助成開始時)

日本では薬物依存に対する治療の選択肢は限られ、多くの患者が専門的な治療を受けられていない。欧米諸国では、薬物乱用・依存の患者を対象にしたインターネットを利用したプログラムが運用され、患者の回復と治療の普及に効果を上げている。また、治療には認知行動療法が有効とされ、プログラムにもその手法が取り入れられている。認知行動療法とは、ものの受け取り方・考え方の癖や感情を客観的に認識し、それに伴って引き起こされた非適応的行動パターンを修正し、問題への対処法を身につけるといった治療方法である。

そこで本研究では、薬物乱用・依存の問題を持つ者に対するインターネットを介した認知行動療法プログラムを開発し、無作為化比較試験においてその効果を検証することとした。

なお、このプログラムは、eラーニングプラットフォームを構築するためのソフトウェアである Moodle を利用する。また、認知行動療法の内容は、全国複数の医療機関や精神保健福祉センター等で薬物依存患者への治療プログラムとして実施されている Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program を参考に作成する。

➤ 選考委員会からのコメント

薬物依存・乱用に問題を持つ人たちは、一般的に治療意欲や動機が乏しいとされている。介入の選択肢を増やすためにもインターネットを介した認知行動療法プログラムの有効性を検証しようとする本研究の意義は大きい。